

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教 育 学 ）	氏名	長 野 真 澄
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>ベトナム人日本語学習者における日本語漢字単語の記憶と処理          —越日2言語間の使用漢字の異同と音韻類似性を操作した実験的検討—</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 松 見 法 男          審査委員 教 授 深 澤 清 治          審査委員 教 授 宮 谷 真 人</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、ベトナム語を母語とする日本語学習者（以下、ベトナム人学習者）を対象とし、日本語漢字単語の記憶と処理における母語の影響を検討したものである。ベトナム語では、漢語由来の語彙である漢越語が多く用いられ、個々の漢字のベトナム語読みである漢越音が存在する。本論文ではこの点に着目し、漢字単語におけるベトナム語と日本語（以下、越日）の2言語間の使用漢字の異同と音韻類似性を操作して、3つの実験を行った。まず、漢字単語の筆記テストを行い、日本語漢字単語の記憶における符号化段階での漢越語と漢越音の知識の影響を検討した。そして、語彙判断課題と読み上げ課題を用いた実験を行い、反応時間を測度として、日本語漢字単語の処理における漢越語と漢越音の知識の影響を検討し、ベトナム人学習者における漢字単語の心内辞書モデルを提案した。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、本研究の背景と問題意識をまとめた上で、先行研究を概観し、本研究の研究課題を述べた。まず、ベトナム語における漢字使用の歴史と、漢越語と漢越音について説明し、ベトナム人学習者の漢字学習や漢字単語学習に関する先行研究をまとめた。そして、ベトナム人学習者の漢字単語処理を検討する際に参考となるものとして、中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国人学習者）と韓国語を母語とする日本語学習者（以下、韓国人学習者）を対象とした漢字単語処理研究について、視覚呈示された単語の処理における2言語の語彙表象（形態表象、音韻表象）と概念表象との連結関係、並びに各表象の活性化がもたらす効果という観点から整理した。以上のことをふまえて、本研究の研究課題を述べ、実験で操作される越日2言語間の使用漢字の異同と音韻類似性の定義を明確にした上で、ベトナム語の特徴に基づいた仮説的心内辞書モデルを提示した。</p> <p>第2章では、3つの実験を行い、ベトナム人学習者における日本語漢字単語の記憶と処理について検討した。実験に先立ち、日本語学習経験のないベトナム語母語話者を対象として越日2言語間の音韻類似性調査と検証実験を行い、実験材料を選定するための基礎資料を作成した。実験1から実験3までの音韻類似性の操作は、この基礎資料に基づいて行った。実験1では、漢字単語の筆記テストを行った。テストでは、漢字単語の読み、意味、及び漢越音での読みを書くことを求め、それぞれの得点を分析した。その結果、漢字単語</p>			

の読みと意味において、使用漢字が一致する単語の得点が、使用漢字が一致しない単語の得点よりも高く、使用漢字の一致が漢字単語の読みと意味の符号化を促進する可能性が示された。また、漢字単語と漢越音の対応に関する知識について、単語属性による差と個人差が大きいことが明らかになった。実験 2 と実験 3 では、実験 1 と同様の単語材料を用いて、漢字単語の処理過程を検討した。語彙判断課題を用いた実験 2 の結果、音韻類似性による促進効果がみられ、日本語漢字単語の意味処理に、ベトナム語の音韻表象の活性化が影響することが示された。また、読み上げ課題を用いた実験 3 の結果、使用漢字が一致せず音韻類似性が低い単語の反応時間が、他の単語属性の反応時間に比べて長いことがわかった。これらの結果を、中国人学習者と韓国人学習者を対象とした先行研究の結果と比較しながら、ベトナム人学習者における漢字単語の処理過程を考察し、心内辞書の表象間の関係について議論した。

第 3 章では、実験 1 から実験 3 までのまとめを行い、ベトナム人学習者における日本語漢字単語の記憶と処理について、総合考察を行った。まず、ベトナム人学習者の漢字単語の記憶において、使用漢字の一致によって符号化が促進される可能性を精緻化の観点から考察した。次に、ベトナム人学習者の漢字単語の処理について、中国人学習者及び韓国人学習者との共通点、相違点を示し、ベトナム人学習者の心内辞書モデルを再提示した。そして、本研究の意義、日本語教育への示唆、及び今後の課題を述べた。

本論文は、次の 3 点で高く評価できる。

1. これまで未解明な点が多かったベトナム人学習者の漢字単語の記憶における漢越語と漢越音の影響について、単語属性を操作した漢字単語の読みと意味の筆記テストによってそれを明らかにし、ベトナム人学習者が他の非漢字圏学習者とは異なる特徴を持つことを実証的に示した。加えて、ベトナム人学習者が有する漢字と漢越音の対応に関する知識に、単語属性による差と個人差が存在することを明らかにした。
2. 従来、日本語教育の分野で漢字単語の処理過程を扱う研究は、中国人学習者と韓国人学習者を対象としたものに限られていた。本研究では、母語で漢字表記を用いないものの、漢越語と漢越音を使用するベトナム人学習者を対象とし、越日 2 言語間の使用漢字の異同と音韻類似性を操作した実験を行うことによって、中国人学習者や韓国人学習者とは異なる日本語漢字単語の処理過程を解明した。
3. 第二言語の単語処理研究では、母語との間で同じ表記形態を持つ 2 言語を取り上げたものが多い。本研究では、表音文字を用いるベトナム語と、表意文字を用いる日本語という、表記体系の異なる 2 言語を扱い、母語と第二言語の表記形態が異なっても、視覚呈示された第二言語の単語の処理に母語の影響がみられることを示した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 30 年 2 月 7 日